



研究室だより、院生業績一覧、修士論文題目、執筆 者紹介

著者	同志社社会学研究学会
雑誌名	同志社社会学研究
号	13
ページ	81-85
発行年	2009-03-31
権利	同志社社会学研究学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000012005

研究室だより

2009年3月、社会学部社会学科の第1期生が卒業を迎え、慣れ親しんだ学び舎から巣立っていきました。社会学部設置のお知らせをみなさまへお届けしたのはつい先日のことだと思っておりましたが、気づけばもう4年がたったわけです。

2009年度は学部の移転がおこなわれ、4月から社会学部はすべて今出川校地に移ることになります。これまで多くの授業を京田辺校地で受けていた1、2回生も今出川に来ることになりますので、今出川校地はまた一段と活気を帯びることになるかと思えます。

スタッフの方では、ホワイト先生が4月から学内の日本語・日本文化教育センターに移動され、5月からは森川先生が中国に、9月からは板垣先生がアメリカに、約1年間の在外研究をされることになっています。2009年度は、この体制のもとで、キャンパスのフレッシュな雰囲気にも圧倒されぬよう、教育研究や学内・学外の諸活動に臨んでいく所存です。

大学院では、博士前期課程の学生6名が修士論文を提出し、修士号が授与されました。4月には前期課程に4名、後期課程に4名の新たな院生を迎えることになっており、在学生たちと切磋琢磨しつつ研究に取り組んでいくことと思えます。

皆様方におかれましては、平素より院生たちへご指導を賜りまして心より感謝致しております。今後もなにとぞ温かい目でお見守りくださいますよう、お願い申し上げます。

(小林)

2008 年度 院生業績一覧

中村 圭

【論文】

「京町家の社会学」(共著) 2008 年 10 月 鯉坂学・小松良雄編『京都のまちの社会学』p 98-120, 世界思想社

【学会報告】

「企業改革と『跳槽』——中国沿海都市部 A 社の事例を通して」2008 年 5 月第 59 回関西社会学会(松山大学)

「棟梁」(映像作品) 2008 年 5 月 (共同報告) 第 42 回日本文化人類学会分科会映像人類学上映会(京都大学)

「現代中国における人材の転職と中国的経営——沿海都市部にある A 社を事例として」2008 年 10 月第 27 回社会・経済システム学会大会(早稲田大学)

雨森 聡

【学会報告】

「大学進学に対する地方居住のもつ意味——地域的教育機会格差に焦点を置いて」2008 年 5 月 第 59 回関西社会学会(松山大学)

【資料】

「SPSS による社会調査データ分析入門——シンタックスの解説を中心に」(共著) 2009 年 3 月 『同志社社会学研究』第 13 号(同志社社会学研究学会)

田中 志敬

【論文】

「京都の地域コミュニティと地域運営アソシエーション——町内・町内会と元学区・自治連合会」2008 年 10 月 鯉坂学・小松良雄編『京都のまちの社会学』p 31-57, 世界思想社

西丸 良一

【学会報告】

「中学校別による教育達成効果——高校間格差の是正策に注目した 2005 年 SSM データの分析」2008 年 8 月 第 67 回日本教育学会大会日本教育学会

山本 圭三

【論文】

「大学生のフリーター志向に関する考察——自己効力感の視点から」2009 年 2 月 『評論・社会科学』

第 87 号, p. 95-116 (同志社大学社会学会)

【資料】

「SPSS による社会調査データ分析入門——シンタックスの解説を中心に」(共著) 2009 年 3 月 『同志社社会学研究』第 13 号 (同志社社会学研究学会)

ニコール コマファイ

【査読付論文】

「平成 19 年能登半島地震における災害時要援護者への対応に関する質的研究——要介護高齢者支援組織の対応過程分析より」(共著) 2008 年 11 月 『地域安全学会論文集』第 10 号, p. 521-30

【学会報告】

「平成 19 年能登半島地震における災害時要援護者への対応に関する質的研究——要介護高齢者支援組織の対応過程分析より」(共同報告) 2008 年 11 月 第 23 回地域安全学会研究発表会

多喜 弘文

【学会報告】

「階層・意識・学力の関連構造とその背景——PISA 2003 を用いた国際比較」2008 年 5 月 第 59 回関西社会学会 (松山大学)

“Socioeconomic Status, Attitudes, and Test Scores : An International Comparison Using PISA 2003 Data” August, 2008, International Sociological Association Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility (Stanford University)

2008 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
金 子 嘉 秀	大正期の育児観に関する一考察 ——『日本児童協會時報』、『育児雑誌』内記事の分析を通して
白 川 俊 之	社会的公正の計量分析 ——機会の平等と社会不公平感
田 崎 俊 之	現代企業組織と企業横断型実践コミュニティ ——伏見酒造業における酒造りの社員化を通して
陳 宇 潔	在日教育とエスニシティの形成 ——南北分断と在日コリアン
藤 本 穰 彦	親密圏の再編へむけて ——『純粹な関係性』から『記憶の共同体』へ
巴 芳	在日中国人の新しいネットワークと社会関係資本の形成分析 ——大阪国際連盟 FC の事例から

執筆者紹介

藤本 昌代

同志社大学社会学部社会学科
組織社会学 職業社会学 社会心理学
mfujimot@mail.doshisha.ac.jp

河口 充勇

技術・企業・国際競争力研究センター 特別研究員
比較社会学 地域研究 社会調査
mkawaguc@mail.doshisha.ac.jp

小林 大祐

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科
社会意識論 社会階層論 社会調査法
dkoba@jindai.ac.jp

小林 久高

同志社大学社会学部社会学科
社会意識論 政治社会学 理論社会学
hkobayas@mail.doshisha.ac.jp

雨森 聡

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程
地域移動論 地域社会学
ele3801@mail2.doshisha.ac.jp

山本 圭三

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程
社会意識論 職業社会学 社会階層論
esg_3401@mail2.doshisha.ac.jp

鯨坂 学

同志社大学社会学部社会学科
都市社会学 地域社会学
majisaka@mail.doshisha.ac.jp